

第16回千葉県地域連携の会 開催要項

～ 医師の働き方改革との向き合い方 ～

- 1 目的 医療、介護、福祉、行政等の関係者の皆様と、地域の抱える課題や必要な対策を議論し、より望ましい医療提供体制の構築を目指します。
- 2 日時 令和5年3月23日（木）13:00 から 19:45
- 3 場所 千葉大学医学部附属病院 外来診療棟3階（千葉市中央区亥鼻1-8-1）
- 4 開催方法 対面及びオンライン形式（Zoom）
- 5 主催 千葉大学医学部附属病院
- 6 参加 医療・介護・福祉・行政等関係者、当院教職員 等
- 7 参加費 無料
- 8 申込み ホームページからお申込みください。（申込期限：令和5年2月28日（火））

ホームページアドレス https://www.ho.chiba-u.ac.jp/hosp/medical/info/med_20230105.html
（右記QRコードにより、スマートフォン等からのお申込みも可能です。）



※参加者への配付資料（抄録集）に施設紹介を掲載しますので、掲載をご希望の場合は、上記ホームページによりお申込みください。

9 プログラム（予定）

※ 登壇者や発表者、時間、場所は変更となる場合があります。

※敬称略

12:30 受付開始

外来診療棟3階廊下で受付をお願いいたします。

13:00～13:10 オープニング

開会【ガーネットホール】

主催者挨拶、来賓挨拶（千葉県医師会、千葉県看護協会）

13:10～14:45 第1部 全体会（講演、パネルディスカッション）

医師の働き方改革との向き合い方

【ガーネットホール】

【登壇者、パネリスト】

横手 幸太郎（千葉大学医学部附属病院 病院長）
片山 薫（千葉みなとリハビリテーション病院 院長）
安蒜 聡（大網白里市立国保大網病院 院長）
田中 里愛子（千葉労働局労働基準部監督課長）
井口 豪（千葉県健康福祉部保健医療担当部長）

【座長】

横手 幸太郎

2024年4月からはじまる時間外労働の上限規制の適用により、診療体制や医師派遣の縮小・廃止など、地域の医療提供体制への影響が懸念されます。

千葉大学病院では、教育・診療・研究を行う大学病院としての機能に加え、地域の医療機関への人材派遣の供給源となっており、対応を検討しています。

全体会では、「医師の働き方改革との向き合い方」について医療機関、労働基準監督行政、地方行政の立場から現状や課題を報告、議論することで、医療機関が発揮すべき機能や地域から期待される役割を踏まえ、2024年に迫った改革に医療機関がどのように取り組むべきか考える場とします。

15:00~16:00 第2部 ※分科会A,B,Cを同時開催	
<p>分科会A 在宅診療における迷惑行為対策</p> <p>*発表者* 八千代市医師会</p> <p>【ガーネットホール】</p>	<p>八千代市医師会では、在宅診療の特殊性（単独診療、避難経路不明等）を踏まえ、八千代市や八千代警察署との協力体制の構築を検討しているほか、緊急コールシステムの導入や診療中止基準の制定をはじめ、医師が安心して在宅診療を行える環境を作っています。</p> <p>2022年1月27日、埼玉県ふじみ野市で訪問診療を行っていた医師が、弔問に訪れた故人の自宅で殺害される事件が起きました。また、昨年12月には大阪市内のクリニックで放火事件が起きる等、近年、医師が標的とされる事件が相次いでいます。</p> <p>本分科会では、八千代市医師会が取り組む在宅診療における迷惑行為対策を紹介します。在宅診療をはじめ、訪問看護や訪問介護等、在宅サービスに関心のある方はぜひ御参加ください。</p>
<p>分科会B 小児慢性疾患を抱えた患者の成人期医療への移行期医療支援</p> <p>*発表者* 千葉大学病院小児科、八木内科クリニック</p> <p>【セミナー室1・2】</p>	<p>糖尿病には、小児に多く自己免疫を原因とする1型と、主に生活習慣・遺伝を原因とする2型があり、長期にわたり医療的ケアが必要となります。成人年齢となれば成人診療科への転科を伴う移行が必要となりますが、多くの慢性疾患と同様に思春期にはアドヒアランスが低下します。また、小児慢性特定疾患による助成制度が終了し、使用可能な薬剤が異なるといった糖尿病特有の課題があります。日本小児内分泌学会や日本糖尿病協会からは移行期医療支援ガイドラインや患者さん向けのチェックリストが公開されています。</p> <p>本分科会では、患者さんの送り手となる小児糖尿病専門医と、受け手となる内科医から、糖尿病の移行期医療支援の現状と課題について講演します。</p>
<p>分科会C 包括的脳卒中センターへの認定に向けた取組について</p> <p>*発表者* 千葉大学病院脳神経外科</p> <p>【セミナー室3】</p>	<p>2019年に施行された循環器病基本法に基づき、千葉県では循環器病対策推進計画の策定を進めており、地域での体制整備が進んでいます。日本脳卒中学会では、脳卒中診療の体制整備と役割分担の明確化を図るため、一次脳卒中センターや包括的脳卒中センター等で構成される「脳卒中ピラミッド」を、2024年に完成させる目標を掲げています。</p> <p>一次脳卒中センターである千葉大学病院では、現在、多職種間の連携のもと、治療と予防に力を入れているほか、血管内血栓回収術や頭蓋底部内視鏡手術をはじめとする先端医療を提供しています。将来、24時間365日、高度な脳神経外科治療と血管内治療を行う「包括的脳卒中センター」への認定に向けて取り組んでいます。</p> <p>本分科会では、当院における脳卒中診療の取組とともに、脳卒中ケアユニット（SCU）の設置に向けた動向を紹介します。</p>

<p>分科会D</p> <p>「ヘルスケアパスポート」を活用した地域医療連携の取り組み</p> <p>*発表者* TIS 株式会社</p> <p>【ガーネットホール】</p>	<p>ヘルスケアパスポートは、医療機関同士と生活者の双方向による健康・医療情報の共有、生活者からの情報提供の同意や利用停止の申請などを電子的に処理できるクラウドサービスです。導入、運用コストの大幅削減や、小規模な医療圏でのスモールスタート、オープンプラットフォームによるサービス拡張性が特徴です。情報セキュリティに強みを持つTIS株式会社と、SHACHI で先進的な地域医療連携を展開した千葉大学病院との協業で開発し、2020年9月28日から運用を開始しています。</p> <p>本分科会では、ヘルスケアパスポートを活用した地域医療連携への取り組みや、地域包括ケアシステム実現に向けた千葉大学病院と各医療施設（中核病院、クリニック、検査機関、調剤薬局等）の連携における進捗をはじめ、今後の展開や具体的なサービス内容、活用方法について紹介します。</p>
<p>分科会E</p> <p>千葉県がん・生殖医療ネットワーク COFNET について（第一部）</p> <p>*発表者* がん診療施設 生殖医療施設の医療従事者等</p> <p>【セミナー室1・2】</p>	<p>千葉県がん・生殖医療ネットワーク COFNET (Chiba OncoFertility Network) は、千葉県から委託を受け千葉大学病院内に設置された千葉県がん・生殖医療相談支援センターが事務局を担当しています。COFNET は千葉県でがん治療を受ける小児・AYA 世代のがん患者さん等に、妊孕性温存療法について必要な情報を提供し、適切な医療が受けられるよう、対応可能な医療機関の情報を把握し、情報提供を行います。また、がん等の診断・治療を行う医療機関と、妊孕性温存療法を行う医療機関とのスムーズな連携を支援するとともに、妊孕性温存療法の普及のための医療機関向け、患者さん向けの研修会を開催いたします。</p> <p>本分科会は二部構成となっており、第一部ではCOFNETの実績、患者会、がん・生殖専門心理支援、助成制度についてご紹介いたします。（第二部は分科会Hで開催します）</p>
<p>分科会F</p> <p>終末期患者のACPを踏まえた意思決定支援と地域連携①</p> <p>*発表者* 千葉大学病院患者支援部・呼吸器内科 地域の関係機関</p> <p>【セミナー室3】</p>	<p>高齢化社会が進む中、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」が進められています。その中で、患者さん・ご家族に対してはACPを踏まえた意思決定支援が推奨されており、状況に応じた支援を行うためには、地域関係者との連携が必要不可欠です。</p> <p>患者さんは終末期の療養を考える治療の転換期には、環境の変化等に戸惑います。当院では、その様子を理解しながらも、次の療養場所へ支援を繋ぐことに課題を感じています。</p> <p>本分科会は、第3部、第4部の時間帯で連続して行います。はじめに、当院とよく連携を図っている関係機関と、ACPを踏まえた意思決定支援における現状や課題の共有を行います。その後、それぞれの立場で出来ることや地域連携の在り方について、パネルディスカッションを行います。</p>

17:30~18:30 第4部 ※分科会 G, H, I を同時開催

<p>分科会 G 救急医療の適正化・効率化に向けた CHIBA e-link の取組について</p> <p>*発表者* 千葉大学病院救急科 等</p> <p>【ガーネットホール】</p>	<p>急速な高齢化が進む千葉市では、救急隊の出動件数が増加し、救急活動の所要時間も延伸傾向にあります。</p> <p>CHIBA e-link (千葉大学病院 救急病院連携コンソーシアム) は、限られた地域の救急医療資源を効率的に提供し、持続可能な質の高い救急医療を実現することを目的に、千葉大学病院が 2022 年 9 月 13 日に設立しました。2022 年 11 月現在、三次救急病院や後方支援病院を含む 23 の病院のほか、千葉県や千葉市、千葉市消防局が CHIBA e-link に参加し、二次・三次救急医療機関が有する医療機能の明確化や、転院調整の円滑化に資する取組を実施しています。</p> <p>本分科会では、救急医療の適正化・効率化に向けたデジタルツールの活用など、CHIBA e-link が進める取組や今後の展開について紹介します。救急医療に関心のある方はぜひ御参加ください。</p>
<p>分科会 H 千葉県がん・生殖医療ネットワーク COFNET について (第二部)</p> <p>*発表者* がん診療施設 生殖医療施設の医療従事者等</p> <p>【セミナー室 1・2】</p>	<p>千葉県がん・生殖医療ネットワーク COFNET (Chiba OncoFertility NETwork) は、千葉県から委託を受け千葉大学病院内に設置された千葉県がん・生殖医療相談支援センターが事務局を担当しています。COFNET は千葉県でがん治療を受ける小児・AYA 世代のがん患者さん等に、妊孕性温存療法について必要な情報を提供し、適切な医療が受けられるよう、対応可能な医療機関の情報を把握し、情報提供を行います。また、がん等の診断・治療を行う医療機関と、妊孕性温存療法を行う医療機関とのスムーズな連携を支援するとともに、妊孕性温存療法の普及のための医療機関向け、患者さん向けの研修会を開催いたします。</p> <p>本分科会は二部構成となっており、第二部ではがん診療および生殖補助医療の現況と課題について現場からの声を紹介します。</p>
<p>分科会 I 終末期患者の ACP を踏まえた意思決定支援と地域連携 ②</p> <p>*発表者* 千葉大学病院患者支援部・呼吸器内科 地域の関係機関</p> <p>【セミナー室 3】</p>	<p>高齢化社会が進む中、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう「効率的かつ質の高い医療提供体制の構築」と「地域包括ケアシステムの構築」が進められています。その中で、患者さん・ご家族に対しては ACP を踏まえた意思決定支援が推奨されており、状況に応じた支援を行うためには、地域関係者との連携が必要不可欠です。</p> <p>患者さんは終末期の療養を考える治療の転換期には、環境の変化等に戸惑います。当院では、その様子を理解しながらも、次の療養場所へ支援を繋ぐことに課題を感じています。</p> <p>本分科会は、第3部、第4部の時間帯で連続して行います。はじめに、当院とよく連携を図っている関係機関と、ACP を踏まえた意思決定支援における現状や課題の共有を行います。その後、それぞれの立場で出来ることや地域連携の在り方について、パネルディスカッションを行います。</p>

<p>分科会J 入退院支援クラウド「CAREBOOK」による医療DXの展開</p> <p>*発表者* 株式会社3sunny 函館五稜郭病院 等</p> <p>【ガーネットホール】</p>	<p>「CAREBOOK」は、入退院支援における病院間の迅速かつ円滑なコミュニケーションを目的としたクラウドサービスです。CAREBOOKは株式会社3sunnyが2020年に提供後、2022年11月現在、県内では約90施設の病院が利用しており、多くの患者さんの転院調整に役立てています。従来の電話やFAXによる業務の負担が軽減されることで、患者一人ひとりに向き合える環境づくりが構築されるとともに、職員の働き方改革にも寄与しました。</p> <p>本分科会では、当院におけるCAREBOOKの利用状況を紹介するほか、株式会社3sunnyによる県内における導入実績や今後の展望を紹介します。</p> <p>また、2022年8月から本サービスを利用した函館五稜郭病院から、CAREBOOKを活用した転院調整の実態をはじめ、函館地域で進める医療DXの取組や地域連携の取組を紹介します。</p>
<p>分科会K 薬剤師・看護師の立場から考える がんの痛みにおける地域の課題</p> <p>*発表者* 千葉大学病院緩和ケア支援チーム</p> <p>【セミナー室1・2】</p>	<p>がんを抱える方において痛みは、治療中の方の1/3、終末期では2/3に出現すると言われていています。痛みを軽減してQOLを高めるためには、さまざまな薬剤を使用し、その方の痛みの特徴や生活に合わせた調整が必要となります。</p> <p>近年、オピオイドをはじめとする薬剤は種類が増え、各施設によって取り扱う薬剤やデバイス、管理方法が異なることがあります。そのため、退院や転院等療養が移行する時には、その場に合わせた調整が必要とされます。その対応が複雑化してきており、その方に合わせた調整方法の共有は欠かせない事項です。</p> <p>本分科会では、大学病院でのオピオイドの取り扱い状況の紹介と、地域の各施設の現状に関する共有や意見交換を行います。地域で暮らす方々の痛みへの対応を、施設単位でなく療養場所の移行に合わせシームレスに行っていくための課題や方策について討議したいと思います。</p>
<p>分科会L 地域医療機関において診療に難渋する症例に対する医師間オンラインコンサルテーションシステムの構築</p> <p>*発表者* 千葉大学病院消化器内科</p> <p>【セミナー室3】</p>	<p>地域医療機関と高度専門病院の間に存在する医師、患者さん双方の物理的・心理的な距離間が、診断および治療に難渋する症例の円滑な医療提供の妨げとなることがしばしばあります。また、症例紹介の前段階にあたる症例の相談についても多忙な医師同士でのスケジュール調整が困難である問題があります。</p> <p>このような問題点を踏まえ、地域医療から高度専門病院へのアクセスの再構築を目的として、千葉大学消化器内科と株式会社シーエーシーはオンデマンドな面談予約が可能でありかつ秘匿性の高い新規のオンラインコンサルティングシステムを共同で開発しました。現在、本システムを用いた医師間のコンサルティングによる地域医療連携における有用性の検証を行っています。2022年より千葉大学医学部附属病院と千葉県、茨城県、静岡県との8つの地域医療機関で利用を開始し、既に多くの症例について適切な医療提供についての相談を行っています。</p> <p>本分科会では、本システムの現状を紹介するとともに、今後の展望についてお話しさせていただきます。</p>